

響け念仏 北の大地に 本願寺帯広別院だより

〒080-0803 帯広市東3条南5丁目3 TEL: 0155 (23) 3720
FAX: 0155 (21) 4989 発行人: 輪番・仲尾信博

別院ホームページ
http://www.betsuin.jp/ →

2024
(令和6)年
3月号



楽しい時間はすぐに過ぎてしまい、名残惜しさを感じつつ再会を約束した



北海道教区仏教青年連盟による研修会・交流会が2月17日と18日の2日間、札幌市定山溪にて行われました。4年ぶりの開催でした。帯広別院からは青年会の2名と職員1人が参加しました。

はじめに、札幌別院職員によるご法話をいただきました。人間には「三毒の煩惱」である貪欲・瞋恚・愚痴や、「四苦八苦」である生老病死の苦と愛別離苦・怨憎会苦・求不得苦・五蘊盛苦など、避けては通れない苦しみがあります。これらの苦しみを抱えながら生きることを教えてくださるのが仏教です。苦しみを受け止め、どう生きていくのかについて、お話を聞かせていただきました。

その後、ノースサファリサッポロで動物とふれあい、定山溪温泉にはいって、親睦を深めました。今回の参加は札幌、帯広、倶知安の3地区から、釧路と函館は不参加でしたが、久々の集まりに話は尽きず、賑やかな研修会・交流会でした。

帯広別院の青年会も、夏と冬、年に2回の交流会を行っています。夏はイカダ下りやキャンプ、冬はスキーなど楽しいレクリエーションをしています。ご興味のある方は、別院の仏教青年会担当までご連絡をお待ちしています。

3月のご案内

春季彼岸会法要 17日(日)~20日(水) 13時(本堂)
法要後に職員が法話をします

東日本大震災追悼法要 11日(月) 13時(本堂)

4月のご案内

月例布教 1日~3日 13時30分(講堂)

宗祖忌法要 15日・16日 13時(本堂)

春季永代経法要 13日~16日 13時(本堂)



本堂建物補修工事

小屋裏補強工事

屋根工事は、鋼板屋根の葺き替えはせずに、塗装工事にとどめました。これは、今後にも本堂の大規模修復や建て替えなどの可能性があることを

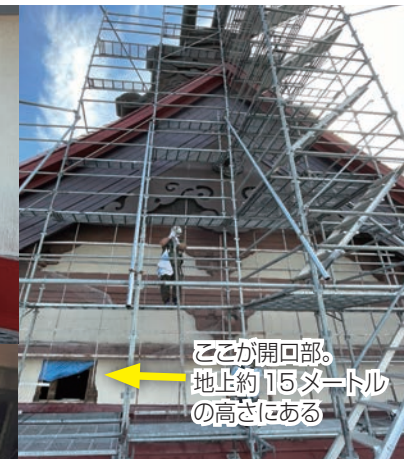
考慮したためです。ただ、屋根を支える小屋裏(屋根と天井の間の空間)の柱には、雪の重みや風の影響によ

るゆがみや破損箇所が見られたため、小屋組(屋根を支えるための骨組み)の補強工事を行いました。

昨年9月、まず小屋裏に工用の木材などを入れるため、西側破風に工用の開口部を設け、資材や道具を搬入。そして、キャットウォークとよばれる点検通路を小屋裏に設け、木材加工の作業台を作製して、工事開始。11月末に補強を完了しました。



開口部から資材を搬入する



ここが開口部。地止約15メートルの高さにある



開口部から小屋裏を見下ろす。この作業台で木材を加工し、補強工事をする

自他ともにたい人我兼利 じんがけんり
せつな言葉紹介

円成 えんじょう

お寺で「無事にえんじょう。うして良かったですね」と聞いたことはありますか。インターネットでの「炎上」を思い浮かべる方も多いかと思えます。SNSなどで否定的な意見が殺到したときに使いますね。しかし、僧侶は平気で「えんじょうして良かった」と言いけるのです。

これは炎上ではありません。「円成」です。仏教で円成とは「円満に成就したこと」を表します。お寺で「この度は法要を無事円成することができました」といえば、法要がめでたく終わり、ともに喜びあう有り難い状態なのです。5月19日(日)は帯広別院で「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」が勤まります。みなさまとともに法要が円成することを願っています。(桐林)



ベンチは2人がけ。まん中に手すりがついている。木目も美しく、四角はきれいに面取りしてある

ベンチを寄贈いただきました
帯広別院総代の高橋猛文さん(有限会社高橋加工部社長)からベンチ6脚を寄贈いただきました。高橋加工部は建物内に取り付ける建具や家具を木材から加工して作られている会社です。いただいたベンチは会館や浄華堂の各所に配置しました。

さっそく使われたご参拝の方々は「靴を履くのにもちょうど良いです」「手すりがあるので立ち座りがとても楽です」と喜ばれていました。

ご寄贈ありがとうございました。

新年互礼会を開催

別院役員、婦人会、壮年会、青年会、ご縁CLUBが参集
5月の慶讃法要いよいよ実働体制はじまる

長らく新型コロナで開催を見合わせていた「新年互礼会」を1月30日(火)18時、帯広市内のホテルで開催しました。会場には帯広別院役員の方をはじめ、仏教婦人会、仏教壮年会、仏教青年会、ご縁CLUBの会員の方々が参集されました。

開式にあたり、元日に発災した「令和6年能登半島地震」についての本願寺派総長談話の用紙を配布し、仲尾輪番が帯広別院において災害支援に取り組みと挨拶しました。

続いて、5月19日(日)にお迎えする親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年の慶讃法要にかかる実行委員会の実働体制について協議しました。委員会は法要部・行事部・庶務部の3部で構成し、各部会の部長・

副部長をはじめ、担当業務や委員構成について説明しました。また、公開講座や帰敬式、補修工事やご懇志の現況について報告しました。

懇親会では久しぶりに会食し、おいしい料理を囲み終始和やかな雰囲気、いよいよお迎えするご法要に向け、気運を高めました。

また、能登半島地震の「災害義援金」募金が行われ、多くの賛同をいただきました。

別院では引き続き義援金を募集しています。



防災訓練

間もなく帯広別院親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要をお迎えすることから、2月22日(木)、法要時に火災が発生したと想定し、防火訓練をおこないました。

職員はそれぞれ、消火・避難誘導・救護の役割を確認しました。ご門徒で別院の消火設備点検をいただいている高木商会の高木将さんから、自動火災報知設備の作動説明を受けました。そして、非常用放送設備を鳴らす訓練、消火器での初期消火訓練、屋内消火栓の確認、僧侶が参拝者を誘導する避難訓練、ご本尊(仮)の搬出を実施しました。

火事や地震はいつ起こるかわかりません。常日頃から備えておくこと、繰り返し防災訓練をすることの大切さを職員一同実感しました。

丸めた毛布をご本尊と仮定し搬出
定し、火点に消火器を向ける
カウンタから火が移ったと仮定し、火点に消火器を向ける

火災時、報知設備がどう作動するか説明される高木さん



ご法話



供養

文：後藤栄城

「暑さ寒さも彼岸まで」というように、お彼岸になるとぽかぽかと暖かくなり、お墓や納骨堂にも多くの人がお参りされることでしょう。

ところで、本来仏教は慰霊や追善、鎮魂のための「いわゆる先祖供養」の教えではありません。仏教は「いのち」と向き合い、いのちをどう生きるのかを伝えてくださっている教えなのです。そして、それを伝える手段として仏教は供養を重んじてきました。供養はサンスクリット語(インドの古語)の「プージ」を語源とし、「敬う」という意味です。慰霊や追善、鎮魂の意味はありません。

敬うとは、こちらの思いを優先するのではなく、相手の思いに立つということです。亡き人を敬うのであれば、亡き人がそのいのちと人生をかけ、愛別離苦(愛するものと別れなければならぬ苦しみ、悲しみ)を通して、残された私たちにいったい何を願い、何を問いかけているのかを受け止めることが大切なのではないでしょうか。私たちのいのちは、生きているいのちだけでなく、亡きいのちにも支えられ、照らされているのです。

そして、サンスクリット語で、あらゆるいのちへの敬意を表すときに使う言葉が「ナモアマミター(南無阿彌陀仏)」なのです。いのちに照らされていると気付かされた時、私たちのいのちと人生が開かれてくるのでしょうか。お彼岸に、供養を通して、いのちと人生を考えていきたいものです。

3月 オススメの一冊



硫黄島 酒井聡平著
太平洋戦争末期、日本軍とアメリカ軍の地上戦「硫黄島の戦い」がありました。硫黄島の日本軍は2万3千、対する米軍は6万1千と圧倒的な兵力差でした。日本軍は島内全域に地下壕を掘って対抗しますが、最後は力尽き、多くの方が自決されました。亡くなった日本兵は約2万2千人。うち1万人が今なお見つかっていません。本書はこの謎の解明に挑みます。著者の祖父は硫黄島近辺・小笠原諸島の部隊にいました。それを知った著者は北海道新聞社の記者となり、硫黄島戦没者遺骨収集団のボランティアとして何度も渡島し、戦争を知らない私たちに、戦争が生み出す悲劇と教訓、学校では教えてくれない大切なことを伝えてくれます。(池上)

『硫黄島上陸 友軍八地下ニ在リ』

酒井聡平著 / 講談社
四六判 / 336頁 / 1650円(税込み)